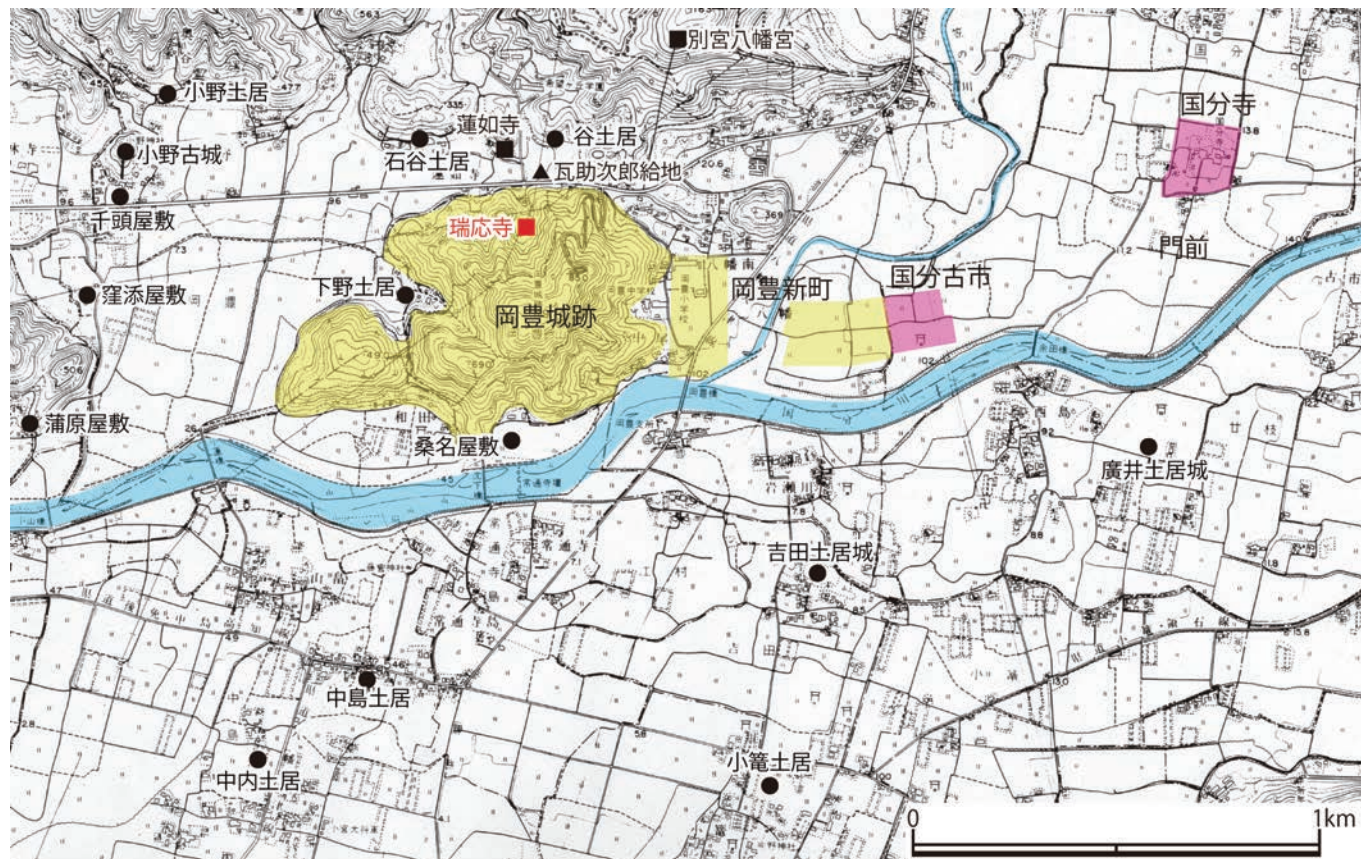
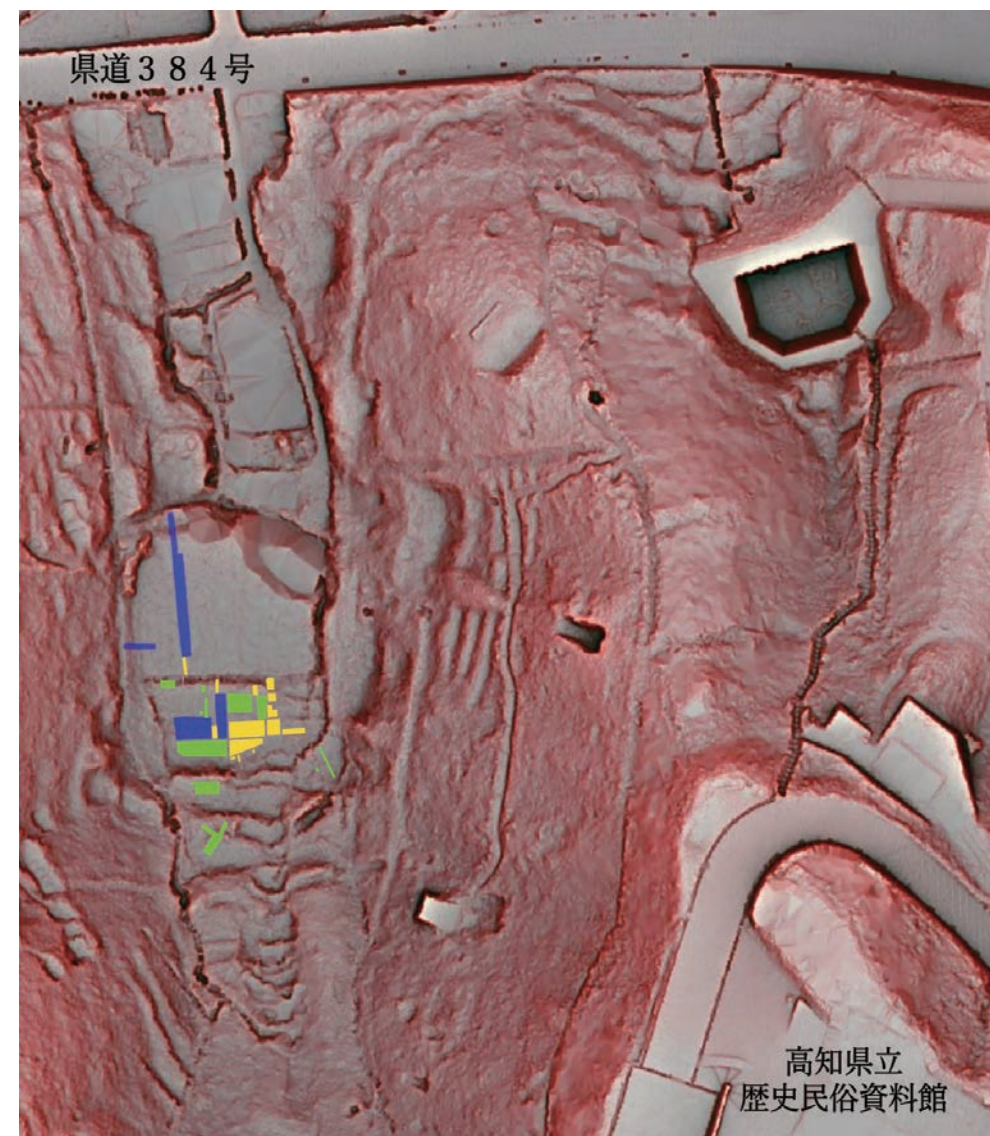




岡豊城と土居・市町位置関係図
(改訂：松田直則)



瑞応寺周辺赤色立体図

- 調査トレンチ設定
- 令和4年度
 - 令和5年度
 - 令和6年度

令和6年度 埋蔵文化財発掘調査

長宗我部一族の寺跡

第三次調査現地説明会資料

ー長宗我部氏の菩提寺 瑞応寺を求めてー



記者発表：令和7年2月6日（木） 10:30～11:30

現地説明会：令和7年2月8日（土） 14:00～15:30

◎ 調査に至る経緯と経過

南国市・岡豊山に位置する岡豊城跡。主郭部は国の史跡に指定されています。その主郭部からちょうど真北に下ると、埋蔵文化財包蔵地・長宗我部一族の寺跡があります。ここは長宗我部元親が父・国親と母を弔うために菩提寺として建立した瑞応寺の推定地で、国史跡追加指定を目指して令和4年度から3年計画で範囲内容確認調査を実施しています。令和4～5年度には、中世の大規模な造成で平坦面を整地していることや、象徴的な巨石を石積の角に据えていること、池状遺構を平坦面の南部に配していることなど、空間構成を考えるうえで重要な発見がありました。第三次調査にあたる今年度は、建物跡の所在確認や平坦面ごとの性格を明らかにし、瑞応寺の空間構成を探ることを目的として調査を開始しました。今後は、3年間の調査成果をもとに、国史跡の追加指定を目指します。

◎ 発掘調査の概要

所在地 南国市岡豊町小蓮字重岩
調査目的 範囲内容確認調査
調査主体 南国市教育委員会

調査遺跡 長宗我部一族の寺跡
調査期間 令和6年12月～令和7年2月末（予定）
調査面積 約100㎡（令和7年1月時点）

調査成果

岡豊山北谷の麓全体を元親の時代に大規模造成

第三次調査にあたる今年度は、瓦が葺かれた礎石建物の痕跡や建物を建てるために釘などを鋳造した炉跡などを発見しました。北谷に造成された平坦面は4面以上で、どの面も石や様々な質の土を使って丁寧に造成されています。また、平坦面ごとにそれぞれの役割があり、すべての平坦面を合わせて広大な庭園とするような空間をデザインしていることもわかってきました。この発見から、瑞応寺を建立した元親の文化的な趣向や宗教観を垣間見ることができます。

◎ 平坦面 2 で礎石建物跡と炉跡などを発見

南西部において、礎石建物の痕跡を発見しました。昨年度の発掘調査では、すぐ東隣りの池状遺構から多くの瓦が出土していましたが、礎石建物跡は見つかりませんでした。池状遺構からは主に平瓦が出土することや瓦の出土量から、この礎石建物は総瓦葺きの建物ではなく、熨斗棟（のしむね）など、一部に瓦を葺く屋根であったと考えられます。

礎石は、岩盤に据え置かれ、礎石の浮いた部分を砂利で補強している様子が伺えます。その他、平坦面中央部付近で炉跡を発見し、炉跡の検出面からは釘の先端部が出土しました。これら鍛冶跡が検出された層のすぐ上層には、灰白色の粘土が薄くかかっており、化粧土を施したようにも見受けられます。



岩盤に据えられた礎石



炉跡で釘を発見

◎ 平坦面 3 の端部における石積は岩盤に据えられていることを確認

平坦面端部の石積は、一部が岩盤に据えられていることを確認しました。石積の一番下の石は、石垣に見られる根石のように座りが良くなるよう加工されています。

岡豊城は石垣のない城といわれていますが、昨年度に発見した平坦面2の東端部に巨石を据える手法は、岐阜県の城づくりなどに用いられる巨石石垣の手法とよく似ています。また、平坦面端部のつくりは岡豊城の曲輪に見られる手法とも酷似しており、城づくりの技術を活かして北谷を整地し、瑞応寺を建立した可能性があります。



平坦面端部の石積

◎ 平坦面 4 は基壇状に造成されている

見晴らしの良いこの平坦面からは、北谷全体を見渡すことができます。表土を剥がすと、基壇状に整地された平坦面が現れました。平坦面2と同様に丁寧な造成が見られ、下層では砂岩を積んで盛土の土台としている様子も確認しました。これだけ丁寧に整えられた平坦面にも関わらず、遺物がほとんど出土しません。このことから、祠などを祀るような宗教的な場所だった可能性も考えられます。



基壇状に整地された平坦面



長宗我部一族の寺跡遺構平面図 (S=1/200)